

Title	廣島支部だより
Author(s)	
Citation	天界 = The heavens (1934), 14(159): 325-325
Issue Date	1934-06-25
URL	http://hdl.handle.net/2433/165557
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

よつて四十倍乃至六百倍になりますこと、組立はホランド會社でしましたこと、製作年代不明のことなどを説明されましたら、御興深く眺められました。隕石二箇、一は明治四十二年七月二十四日午前6時 岐阜縣武儀郡内に落下したもの、一は大正七年一月二十五日午後二時二十九分滋賀縣東淺井郡速見村大字八日市に落下しましたものについて説明されましたら、兩殿下は隕石を手に取り上げ給ひ、『割合ひに輕きものである』と申されました。山本臺長は「後者が落下しましたとき、京都に於て其の音響を聞かれたこと」を申し上げられました。殿下には去二月十四日ロソツプ島に於ける日食のことを、御質問になりましたので、臺長は同島で撮影されました閃光スペクトルの原板に就いて御説明申上げ、昭和八年十月九日佛國で撮影のジャコビニ流星雨、倉敷天文臺撮影「月」の寫眞三枚の原板をも御目にかけたので、御豫定の十分間を過ぐるゝこと八分間で、農業研究所に向はせられました。

後 記

兩殿下が御退出になりますと、早速跡片付けをなし、山本博士と稻葉學士は、午後五時三十分倉敷發の列車で歸途に就かれましたので、私は岡山驛迄送り、岡山驛で急行を待合す爲め兩氏は下車されましたので、四十分間程、今日の感想、將來の倉敷天文臺に就いて語り合ひました。約十萬圓位を投じ完全なものにし、氣象の一端も觀測し、香川縣高松市、愛媛縣今治市に流星觀測所を設け、倉敷天文臺と連絡して觀測しましたら一層よいであらう等と語り合ひますうちに發車の時が迫りましたので、兩氏は乗車されました。

兩殿下を迎へ奉りましたことは、光榮の至りでありましたが、設備其の他不完全な點は實に汗顔の至りで、將來大に努力して相當のものにせなければなりません。又此度の行啓に就きまして、花山天文臺の方々が非常に御力添へ下さいましたことを厚く々々御禮申し上げます。

廣 島 支 部 だ よ り

昨年レオニツの觀測準備座談會を開き、其後結果報告の集ひを開いてから冬眠期に入つて居た當支部も久方ぶりで5月16日19h30mより支部例會を開きました。老年組の磯松氏から少年組の和田君まで集る者9名と言ふ盛會ぶり！

眞田氏の挨拶の後、久方ぶりの顔合せなので種々と面白い話が出ました。太陽、地球、月と天空の驚異の9.5m/m映畫を映寫して、雜談後、散會したのは23hを告げんとする頃でありました。

來月から毎月第二水曜日に開く事に決議致しました。6月は磯貝勇氏に郷土の星の傳説と方言に付いてお話願ふ事に成りました。同氏は、野尻先生もお書きになつて居る通り、其の道の大家なので、さぞかし興味あるお話がある事と期待致して居ります、近縣各地の方も御出席を希望致します。場所は市内鷺野橋“湖水”、委細は幹事宛お問合せ下さい。(T.O生)